

美郷町 ～栗で一点突破！地域ぐるみで取り組む「美郷栗」6次産業化産地づくりプロジェクト～

プロジェクトの概要

美郷町は江戸時代から続く栗の産地です。平成11年から町が栗あんを製造し、栗の価格向上のため、地域ぐるみで6次産業化に取り組んでいます。高齢化に伴う担い手不足が進む中、技術革新を加速させた栽培方法や加工技術の向上を図り、次世代に向けた産地形成と「美郷栗」のブランド化を図ります。

■主な取組内容

①機械等導入による作業の省力化と遊休水田を活用した生産振興

栗は傾斜地で生産しており、収穫や防除は重労働となっています。このためドローンでの防除や栗の収穫機の開発などによる省力化が求められています。担い手確保や企業参入による大規模栽培を進めるために、遊休水田の活用には排水対策が必須となっていますが、これまで効果的な施工事例がなく、安価かつ簡単にできる手法の確立が求められています。

②栗鬼皮の有効活用

栗あん製造を行っている加工場では蒸した栗を半分に切り、機械で押しつぶして実を取り出しています。製造上、全ての実を取り出すことが出来ないため、栗皮には少量の実がついており、腐敗するため早急な処分を余儀なくされています。栗皮にはポリフェノール的一种であるタンニンが含まれており、有効に活用できれば、域内での収入向上や資源循環型農業の確立等、地域ブランドを構築する貴重な資源となる可能性を秘めています。

③熟成栗の開発

栗は青栗での出荷でなく、加工し販売することで生産者の所得向上が期待されます。全ての栗を加工出来ていないことから、熟成し加工時期をずらす事で加工が可能となります。熟成方法など技術が確立されることにより、焼き栗や極力砂糖を使用しないお菓子の開発など、特色ある産地づくりを加工で行いたいと考えます。



加工後の鬼皮

■課題

- 栗産業を担う人材が不足しています。「美郷栗を生産したい」、「風味豊かな栗が加工出来る産地でお菓子づくりを行いたい」、「美郷栗を活用した事業を栗の産地で展開したい」など企業や近隣市町村住民が参入できる生産体制の確立などの仕組みづくりが必要となります。また、情熱のある人材を集める手法も重要となります。
- 加工技術の向上や鬼皮の有効活用など、特色ある産地づくりが必要です。

連携したい企業像

【連携したい企業イメージ】

- 栗産業への参入に興味のある企業
- 農業及び食品開発の知見・技術を要する企業であり、技術の実証や実績作りと共に水平展開も検討する企業及び大学等研究機関。

【期待する技術・専門性】

- 次世代の農業振興技術
- 科学的根拠に基づいた加工技術

【期待する効果】

- 栗生産の省力化
- 廃棄物の有効活用など資源循環型農業の確立
- 他産地にはない加工手法の振興

連携するメリット

【提供できる情報・資源・環境】

- 遊休農地など実証試験に適した用地の選定及び確保を行政が主体的に実行。
- 企業側が希望する要望に対し、生産者、加工事業者、関係機関などと連携した取り組みが可能。

【企業側の裁量】

- 実証・導入した技術は企業の実績として使用可能であり、水平展開のツールとして活用可能。

【予算】

- 国・県等の補助事業を活用

